東播染工×田中繊維

靴下で新ブランド

先染め糸をアップサイクル

先染め織物の東播染工（兵庫県西脇市）と靴下の田中繊維（同加古川市）が共同で靴下ブランド「SAYUU（サユウ）」を立ち上げた。両社が連携して商品を開発するのは初めて。まずは5種類の靴下を製品化し、5月にそれぞれの通販サイトで売り出す。今回はカジュアル靴下がメインだが、売れ行きによっては品種を増やすことも検討する。

5月からネットで販売

サユウは東播染工の余った糸を活用する、アップサイクル靴下のブランドだ。同社は糸染め以外に独自の生地、最終製品の企画、製造、販売も手掛ける。こうした事業から出る余り糸の活用を模索する中で今回の連携が生まれた。

靴下に使用する糸はオーガニックコットン、シルク、麻それぞれ100%の原料から厳選された良質なもの。「ブークレ」や「シルクノイル」という、糸そのものに凹凸感や個性がある特殊なものも含まれる。染色は全て東播染工が行う。

ただ、同社の糸は基本的に織りを想定したもので編み物向けではない。そこで田中繊維が糸を預かり、糸の撚り回数や太さ、原料の性質などを手掛かりに最適な靴下編み機を選び、東播染工が考案した多数の企画の中から商品化しやすいものを選んだ。

田中繊維は2021年に創業100周年を迎えた加古川産地古参の靴下工場。紳士ソックスが祖業だが、現在は生産量の4割程度をレディースが占める。太い糸でも細い糸でも編める多様な編み機約150台を持つ。サユウでは針数140～180本の編み機を使う。

昨年2月の「東京インターナショナルギフト・ショー」に出展した兵庫県靴下工業組合のブースを、東播染工の社員が訪れたのがきっかけで、今回の取り組みに結び付いた。パッケージ制作や靴下の原料の一部で、兵庫県中小企業団体中央会の補助金を使う。

田中繊維の田中一成社長は「普段使っている糸とは異なる物性の糸で靴下を作るのはとても楽しかった。これからアイテムの種類を増やすなど取り組みを進化させていければ」と話す。

東播染工の足立直人さんは「お互い兵庫に本社と工場を置いて頑張っている。両者が力を合わせて生まれたブランドで使い、兵庫県の繊維産業も広くアピールできれば」と話す。

セイコーエプソン

繊維再生化の技術開発へ

香港研究機関と

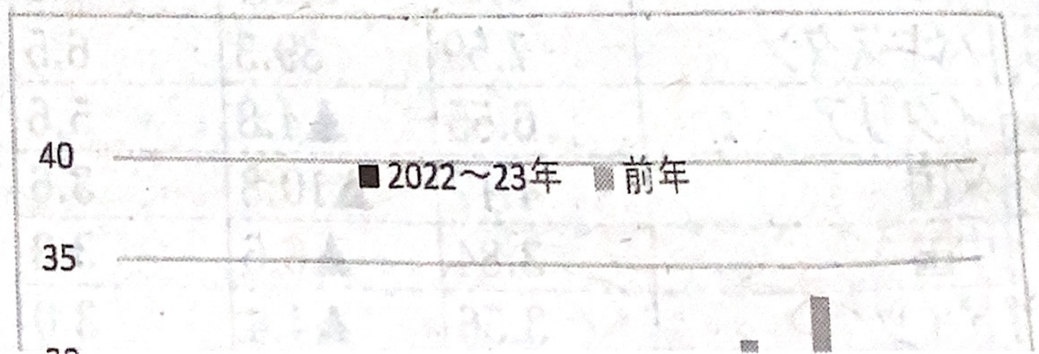
セイコーエプソンはこのほど、独自の繊維再生化技術「ドライファイバーテクノロジー」を活用した繊維再生の新技術開発へ向け、香港繊維アパレル研究開発センター（HKRITA）と共同開発に関する契約を締結した。

ドライファイバーテクノロジーで解繊した繊維で試作した綿糸

ドライファイバーテクノロジーは、撚糸素材の立を図るとRITAの対する知識

12月の輸入動向

合繊毛布（起毛品）　5カ月連続の減



ホーム製品

イン

in.

表取締役

いた

岳　氏

「もちはだ」で知られる肌着メーカー、ワシオ（兵庫県加古川市）の3代目社長に就いた。同社のトップ交規事業を任され、2年間、天津に駐在。スーツ姿で焼酎を現地の日本食店に売り歩いた。「一人で事業計画を

に経営にも関心を持つようになり、ある時、会計帳簿を見てがくぜんとする。「このままでは確実にこの会社

や営業で数字を出すことを厳しく求めました。いま思えば、嫌がられていたと思

ィングで若年層のフ増やした。収益は善へ向かっている。